

命の尊さを伝える本(令和2年)

1月の推薦本

- ・「ほんとうのことをいってもいいの？」

文／パトリシア・C・マキサック 絵／ジゼル・ポター 訳／ふくもとゆきこ BL出版

おすすめコメント：

嘘について、ママにおしおきされたリビー、これからは本当のことだけ言おうと誓いますが…。

リビーは、友達や知り合いのおばあさんとかかわりから「思いやりをもって本当のことを言うのは正しい」ことを学ぶのでした。

(蔵書：南図書館、あおぞら号)

- ・「オットー -戦火をくぐったテディベア-」

トミー・ウンゲラー 著 鏡哲生 訳 評論社

おすすめコメント：

オットーは、テビッド少年のお誕生日の贈り物のテディベアです。

親友のオスカーと、二人と一匹で楽しい日々を送っていましたが、ユダヤ人だったテビッドが強制収容所に連れていかれてから、オットーは数々の戦火に出会うことに…。

そして数十年たったあと、うれしい奇跡が起こります。戦争と平和を考えさせる絵本です。

(蔵書：中央、北図書館)

2月の推薦本

- ・「へいわとせんそう」

たにかわしゅんたろう／ぶん Noritake／え フロンヌ新社

おすすめコメント：

へいわ、せんそう敵、味方って言葉で言われても、なかなか大人

でも実感が伴わないと思いますが、この絵本を見ると、ことばがよく分からなくても直感的に、「へいわ」の大切さを感じられると思います。

(蔵書：中央、西図書館)

- ・「かわいそうなぞう (おはなしノンフィクション絵本)」

土家由岐雄 著 武部本一郎 画 金の星社

おすすめコメント：

戦争中、動物を思う飼育員の実話がリアルに描かれています。

涙なしでは読むことができません。

(蔵書：中央、北、西、南図書館)

3月の推薦本

・「ふくしまからきた子（えほんのぼうけん 40）」

松本 猛／作 松本 春野／作 松本 春野／絵 岩崎書店

おすすめコメント:

原発事故をきっかけに、福島から広島市に引っ越してきた

女の子まやと地元のサッカー好き少年のだいじゅ。

ふたりの子どもの交流を通じて、原発と放射能、私たちの未来について考える絵本です。

(蔵書:中央、西図書館、あおぞら号)

・「そつぎょう -ふくしまからきた子-（えほんのぼうけん 70）」

松本 猛／作 松本 春野／作 松本 春野／絵 岩崎書店

おすすめコメント:

ひさしぶりに福島に帰ってきたまや。

小学校の卒業式をのどきにいくと、なつかしい声でした。

「ふくしまからきた子」から3年、福島でくらす友だちとまやの再会を描く。

(蔵書:西、南図書館)

4月の推薦本

・「くまのこうちょうせんせい」

こんのひとみ作、いもとようこ絵、金の星社

おすすめコメント:

お隣の町 茅ヶ崎市に実在した校長先生のお話です。その言葉と

行動一つ一つが、優しい気持ちに気付かせてくれます。

(蔵書 中央、北、西、南図書館)

・「えんとつ町の㊦ペル」

西野亮廣、幻冬舎

おすすめコメント:

煙だらけのえんとつ町に住む㊦ペル。友達に意地悪されても信じ

ぬいた先に見えたものは…。絵もとても綺麗な本です。

(蔵書 中央、南図書館)

5月の推薦本

・「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る -アフガンとの約束-」

中村 哲／著 澤地 久枝／聞き手 岩波書店

おすすめコメント:

昨年末亡くなられた中村哲医師は、長く続く戦火で疲弊し、大早

越に見まわれたアフガニスタンで「100の診療所より1本の水路を」と現地の人々と

力を合わせ 用水路を作って砂漠に緑を取り戻し、それで多くの命が救われました。

(蔵書 中央図書館)

・「とかげのアンソニー」

小林 博子／作・絵 星和書店

おすすめコメント:

専門医が、認知症の本人と介護する家族を応援するために作った

おとなのための寓話絵本。認知症の母親を介護するとかげのアンソニーが、魔法使いに出会い…。

(蔵書 西図書館)

6月の推薦本

・「ずーとずっとだいすきだよ」

ハンス・ウィルヘルム 絵と文 久山 太市訳 評論社

おすすめコメント:

エルフィー(犬)とぼくは一緒に大きくなってそして、…

ぼくの、愛情と心の成長を描いています。

(蔵書 中央、北、西、南図書館)

・「人生は一本の線」

篠田 桃紅 (Toko Shinoda) 著 幻冬舎

おすすめコメント:

104歳の美術家が、若い人へ伝えたい思い。

幅広い世代の人に読んでほしい、人生のメッセージです。

(蔵書 中央図書館)

7月の推薦本

・「いのちのかぞえかた」

ぶん／小山薫堂 え／セルジュ・フロック 出版社／千倉書房

おすすめコメント:

主人公は、“あなたにそっくり”の「彼女」。人間の生活にまつわる様々な数字を、

彼女の成長を通してみていくと、人体の不思議や、生きることのすばらしさが

胸にせまります。

(蔵書 南、あおぞら号図書館)

・「君のやる気スイッチをONにする遺伝子の話－鹿児島の高校生たちが感動した命の授業－」

著者／村上和雄 出版社／致知出版社

おすすめコメント:

遺伝子工学の世界的権威・村上和雄氏が、高校生を対象に行った講演会を書籍化した本です。生命科学や遺伝子の話を、独特のユーモアや身近な例を交えて伝えてくれます。

(蔵書 中央図書館)

8月の推薦本

・「みえるとかみえないとか」

さく／ヨシタケ シンスケ そうだん／伊藤 亜紗 アリス館

おすすめコメント:

人気作家ヨシタケシンスケが伊藤亜紗に相談しながらつくった、違いを考える絵本です。違いを不安に感じるかもしれないけど、認めあえばとても素敵な発見がありそうです。

(蔵書 中央、西、南図書館)

・「へいわってどんなこと？」

作／浜田 桂子 童心社

おすすめコメント:

日本・中国・韓国の絵本作家が話し合っつくりあげた、平和絵本シリーズの第1弾です。難しい言葉はひとつも出てきませんが、平和とはどんなことか、せつせつと胸に迫ります。

(中央、北、西、南、あおぞら号)

9月の推薦本

・「プラスチック・フリー生活 - 今すぐできる小さな革命 -」

シャンタル・フラモンドン著 ジェイ・シンハ著 服部雄一郎 訳 NHK 出版

おすすめコメント:

ある試算では、2050年には海中に魚よりプラスチックの方が多くなる可能性があるとか。プラスチックの問題が分かりやすく解説されています。

レジ袋有料化のこの機会に手にとってみてください。

(蔵書 中央、南図書館)

・「ママはかいぞく」

カーヌ・シュリュグ 文 レミ・サイヤール 絵 山本知子 訳 光文社

おすすめコメント:

カニなんてへっちゃんら号で、宝の島を探しているママは海賊。

乳癌と闘う作者が我子に治療に取り組む姿を海賊の冒険になぞらえて作った絵本。

この気持ちを知って読むと、またグッとくる。絵はカラフルな素敵な絵本です。

(蔵書 中央図書館)

10月の推薦本

○「はなちゃんのみそ汁－絵本（講談社の創作絵本）」

著者／安武信吾 安武千恵 安武はな 魚戸おさむ 講談社

おすすめコメント：

はなちゃんが5歳の時に、病気の母から、家事全般と出汁の取り方からのみそ汁を教えてもらいます。母が亡くなった後父と二人で、毎朝みそ汁を作り、笑顔と元気を繋いでいく実話です。

（蔵書 北図書館、あおぞら号）

○「つかまえた」

著者／田島征三 偕成社

おすすめコメント：

NHK 日曜美術館「田島征三 いのちのグリグリを描く」で制作中の様子が紹介された。

80歳の作者が幼少期に体験したお話。夏のある日、暴れる川魚を無我夢中で素手で掴んだ。今も手のひらに残っているという、いのちの感触が伝わってくる。

（蔵書 北図書館）

11月の推薦本

・「うちにあかちゃんがうまれるの」

文／いとうえみこ 写真／伊藤泰寛 出版社／ポプラ社

おすすめコメント：

家族みんなで赤ちゃんを迎える時間を写真にした絵本。家族がどれくらい待ちわび、生まれたときはどんなだったのか、お兄ちゃんお姉ちゃんの成長も感じ、心が温まる。

我が子にもどうだったか話してあげたくなり、自分のときはどうだったか両親に聞きたくなる一冊。

（蔵書 中央、南図書館、あおぞら号）

・「おじいちゃんのごらくごらく」

作／西本 鶏介 絵／長谷川 義史 出版社／鈴木出版

おすすめコメント：

大好きなおじいちゃんとの楽しい時間。

やがて訪れる別れに悲しむも、おじいちゃんの口癖だった「ごらく、ごらく」と共におじいちゃんの優しい顔を思い出す。悲しいけれど幸せな気持ちになる一冊。

（中央、北、西、南図書館、あおぞら号）

12月の推薦本

・「手と手をつないで」

文／マーク・スペアリング 絵／フリッタ・テッケントラッフ 訳／三原泉 BL 出版

おすすめコメント：

手をつなぐだけで、こんなにも安心感がもらえるんだなあと改めて思える本です。

(中央、北、南図書館、あおぞら号)

・「Life」

作／くすのきしげのり 絵／松本春野 瑞雲社

おすすめコメント：町はずれにある「Life」という小さなお店。何かを売っているわけではないのです。でも…、訪れる人の思いがめぐり、優しさと温かさ、人とのつながりを感じさせてくれる絵本です。
(あおぞら号)